

12月4日 大宮中学校人権意見発表会&講演会

## 人権のつどい

1学期は「いじめ」について、2学期は「障がいのある人の人権」について学習しました。その学習での学びを、作文としてまとめました。その中から各学年を代表して1名ずつに、自分の考えを発表しました。また、3年2組吉岡真菜さんは、令和6年度全国中学生人権作文コンテスト京都大会で京都地方法務局長賞を受賞した作文を発表しました。

そのあと、日本財団パラスポーツサポートセンターが行っている「あすチャレ！ジュニアアカデミー」という団体から、講師として西崎哲男（にしぎ てつお）様に『パラアスリートと共生社会を学ぶワークショップ型授業』をしていただきました。西崎さんは23歳の時に交通事故で脊髄損傷となり車いすユーザーとなりました。事故にあい絶望を味わったが、そこからどうして前向きになれたのか、また障がいは少しの工夫やチャレンジで減らせることを誰もが楽しめるドッジボールのルール作りのワークショップを通して話していただきました。

人権について、自分の生き方について、ひいては社会の在り方について考える機会になったことと思います。ほんの一部になりますが、どんなことを考え、そして学んだのかを紹介します。

### 第1部 人権意見発表会

1年 小倉 菜々さん

『画面の向こうの気持ち』

写真は掲載しません

どんな人でも手軽に使えて自分の意見を簡単に伝えることができるスマホ。SNSが普及した今、誹謗中傷が起っています。芸能人で誹謗中傷を原因に自殺した人はたくさんいます。誹謗中傷は人を追い込み死まで追い詰めることがあります。私も実際にショート動画を見ていて、コメント欄を開くとどうでもいいことを叩くコメントと、それに賛同するコメントが並んでいました。面白いなと思って見ていた動画に予想外の反応で驚いた経験があります。もしこれが自分に向けたものだと考えたら、顔も名前も知らない大勢の人からの批判が画面の中にあふれていると、自分を否定されているみたいでどんどん自信がなくなっていくと思います。誹謗中傷を受けた人は深刻な心のダメージがずっと残ってしまいます。人を傷つけるコメントはわざわざ書く必要がないと思います。コメントは世界中の誰でも見ることができます。そのコメントを見て喜ぶ人もいますが、それを

見て不快な気持ちになる人もいます。コメントした人はちょっとしたつぶやきの気持ちでも、その言葉はすぐにSNSで拡散されます。後から悔やんでも手遅れです。だから全世界の人が見ることができるということを理解したうえで、自分の書いたことに責任を持つことが必要だと私は考えます。ネットは顔の見えない匿名の世界だからこそ、気持ちが大きくなったり罪悪感が薄くなったりして、いきすぎた言葉が飛び交うようになります。言葉はいいものにも、悪いものにもなります。たった一つのコメントでも人は人を追い込むことができます。そして一つのコメントで人を救うこともできます。誹謗中傷コメントは本人に直接言う悪口と同じです。匿名だからといって許される行動ではありません。誹謗中傷を原因に自殺するという同じことが何度も起っているのに、SNSは全然変わっていません。1日の中の限られた時間で閲覧することを楽しみにしているSNSで、不快な思いをしたくありません。私は誹謗中傷がなかなかなくなることを残念に思います。楽しみの一つであるSNSを正しく活用していくために、私たち利用する側の人たちが画面の向こうの人の気持ちを考えて、前向きな言葉を伝えられる人になっていきたいと強く思いました。

2年 稲川 衣織さん

『成長したい人間像』

「人は助け合って生きている」

人権学習で一度は耳にする言葉です。口で言うのは簡単ですが、それを実行する事は難しいです。人は優しさで心をやわらかくしますが、時に傷付けることで、かたくさせます。関わり方によっては、人の人生に影響を与えると私は考えました。

私は中学二年生の人権学習で偏見や差別の学習と障がい者の日常からバリアフリーを考える学習をしました。どの学習も「偏見や差別をしない」「人の気持ちになって考える」と当たり前のことを言っていました。当たり前なことだと分かっているはずなのに、何故学習するのだろうと始めは疑問を抱いていました。私はこの疑問を考えることによって、今後どうしていくべきかがわかるのではないかと思います。

考えた結果、出てきた答えは「そもそも当たり前が当たり前になっていないから」でした。振り返ってみると私は一学期に「うわさを広めない・うのみにしない」と宣言していたのにも関わらず、実際はうわさをうのみにしたり、誰かに広めたりしていました。それは当たり前がまだ自分の中に定着しきれていない証です。分かっていたつもりだったけど分かっていなかった自分が恥ずかしくなりました。当たり前のことを当たり前に行けるように日頃からもっと心がけていく必要があります。

私の学年はいじめが少ないです。でも、いじめのもとになることは数えきれないくらいあります。それを止められるかどうか

「偏見や差別をしない・人の気持ちになって考える」  
ひいては人の心をやわらかくすることができると思います。今後私は当たり前のことを当たり前にながら人を守り、守られる人に成長していきたいです。

「人は助け合って生きている」

写真は掲載しません

次号は3年生二人の作文を紹介します。